

2023年度 CCoE国勢調査

Jagu'er CCoE 研究分科会 編



はじめに

近年の企業におけるクラウド活用が急速に進展している状況下において、クラウドの利活用に関する知識やスキルを有した人材の育成が喫緊の課題となっています。それに伴い、多くの企業ではクラウド活用推進組織としてクラウドセンターオブエクセレンス (CCoE) の設置が注目を集めています。2021年にスタートしたJagu'e'rのCCoE研究分科会への参加企業も年々増加しており、現在119社208名(2023年11月1日現在)が参加しています。CCoE研究分科会では、昨年に引き続き今年も企業CCoE意識調査を実施しました。昨年は50社からの調査回答をもとに結果報告セッションを設けましたが、今年はその4倍となる200社から調査回答があり、本報告書を刊行します。

参加企業のCCoE調査結果からCCoEの現状を理解すると共に、CCoE運営における課題を明らかにし、CCoEの在り方を考察します。また、その結果を参加企業メンバーをはじめ、これからCCoEを設置、組織運営を開始しようとしている多くの企業へ公開することで、皆様の今後の活動に資することを目的としています。

本報告書では、昨年度の個別セッションで得られた知見も踏まえながら、CCoEの設置・運用に関する提言します。本報告書は、以下の2章で構成されています。

第1章 2022-2023年 アンケート結果比較: 本年度のアンケート結果まとめと昨年度との比較で構成されています。

第2章 個別のインサイト これからのCCoEに向けて: 本年度の調査で顕著にみられた、これからCCoEを設立したい、またはCCoEを設立して間もない企業に役立つインサイトを記載いたしました。

本報告書が、企業におけるCCoEの設置や運用に役立つことを願います。



01

2022・2023年 アンケート結果比較



Jagu'er

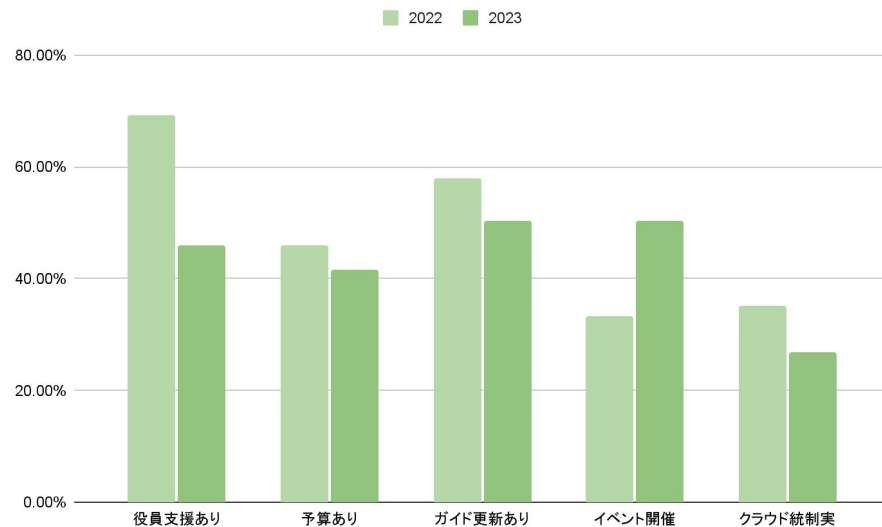
Japan Google Cloud User Group
for Enterprise

役員のスポンサーシップと実施内容の数値比較

役員支援、予算、ガイド更新、イベント開催、クラウド統制に対して「有り」と回答いただいた企業の割合を2022年と2023年で比較しました。

2022年は役員支援のCCoE組織が過半数(64%。42社中27社)に達しましたが、2023年は半数を下回る結果となりました(35%。200社中69社)。

2023年は2022年と比較してイベントの実施に力を入れている組織が多く見受けられました。



(コラム) イベント開催はどんなことやってますか？

CCoEは部署横断的な活動を行うために概ね以下のようなイベントを開催したり、自ら参加しています。

- ・ステークホルダーを召集した定期的な定例会

エグゼクティブを始めとする関係者をアサインし、ガバナンスの適用など広範囲に影響する内容の取り決めを行う

- ・個別のプロジェクト定例会への参画

セキュリティ要件などのチェックや、全社アーキテクチャ最適化のためのノウハウの知見を伝道する

- ・勉強会

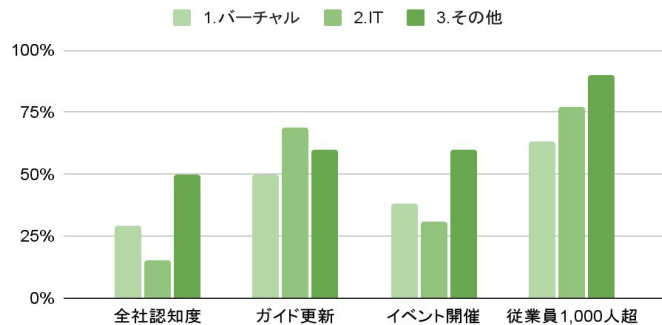
統制にそったクラウド利用を実践してもらうため、教育カリキュラムを自ら作成し、エンジニア向けに開催する

また、自社の枠を超えて活動の幅を広げ、プラクティスを得る目的で社外イベントの開催や参画も行います。当CCoE研究分科会でもCCoE Class Room(業界トップクラスの現役CCoE等を講師に迎えた勉強会)やMeetUP(各社のLT大会などでCCoE間のネットワークを広げる場)など様々なイベントを開催し、各社のCCoEを支援する活動を行っておりますのでご興味あれば是非ご参加ください。

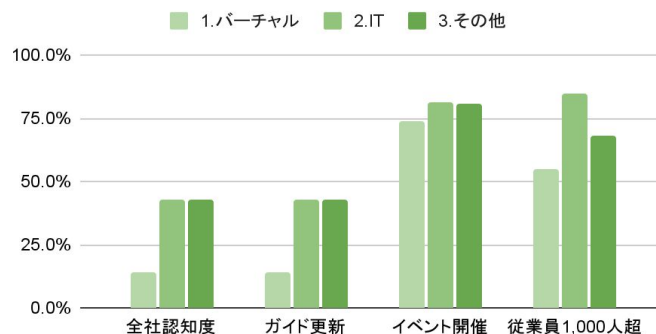
CCoEを牽引する部署と活動比較

CCoEがバーチャル組織か、IT部門が運営しているか、またはそれ以外かでの認知度と活動内容の比較です。2022年、2023年ともバーチャルでない組織が活動内容が充実しているという結果となりました。また、従業員数が1,000人を超える企業がアンケート回答の大多数を占めており、企業規模が多いほどCCoEのようなDX推進における専門組織が必要となることは明らかです。

2022年



2023年



(コラム) どんな形態で運営してるんでしょう？

CCoEはクラウドを利活用するチームや機能の会社への実装となっているため、会社ごとにフィットした実装形態となっているため、各社においてその形態はまちまちです。主に以下のような種類があります。

・バーチャル型組織

ステークホルダーを集め、既存のロールと兼任という形で運営します。ハード組織として部署名用意されている場合もあれば、会議帯自体がCCoEと同機能になっているなど柔軟な形態をとります。

・ハード型組織(セキュリティ部門の一機能、または、社内インフラ、コーポレート部門の一機能)

既存組織で会社の責任分解点において、それを担う部門にロール拡張、人員追加を行い、CCoEとしての機能を追加する形態です。

・専任型組織

CCoE部など特化した部署名が付けられて運用されている形態です。

さらに複数種類を組み合わせ、専任者+バーチャル組織の形態を取っている会社もあります！ベストプラクティスは無いので、自社にあった運用形態にするのが大事だね！！



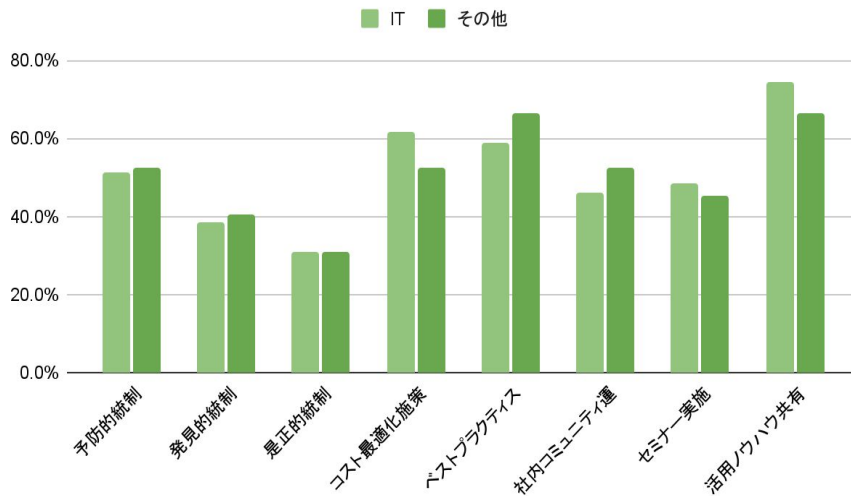
活動内容の詳細比較

各社のCCoEがどのような取り組みを実施したのかと調査した結果です。

IT部門によるCCoE組織とそのほかのCCoE組織での差はあまり見受けられませんでした。

攻めの取り組み(積極的なクラウド活用推進)と守りの取り組み(安心・安全にクラウドを活用するためのクラウド統制)に分けるとすると攻めの取り組みを実施しているCCoE組織が多い結果となりました。

2023年



(コラム) よく出てくる”統制”って何ですか？

CCoEの書籍やネットニュースを読むと”統制”とか”ガバナンス”という言葉が頻繁に出てきます。”統制”と”ガバナンス”は同じ意味となりますが、”統制”は人に守ってほしいルールや行動規約、”ガバナンス”は統制が記述された社内規約やそのドキュメントをさすため、会話の中で使い分けられている場合もあります。また、統制には以下の3種類があり、これらを横断的に実装することがCCoEの特色となっています。

・予防的統制

ルールに反するリソースをそもそも作成できないようにします。デフォルトでパブリックに非公開にする設定を強制するガードレールをクラウドサービスから設定するといった統制です。

・発見的統制

ルールに反するリソースが作成された時にそれを検知できる仕組みです。検知できるアラートを設定する統制です。

・是正的統制

ルールに反しているリソースを正しいリソースに修正することです。暗号化されていない現行データベースのディスクを暗号化したものにマイグレーションする作業などを示す統制です。

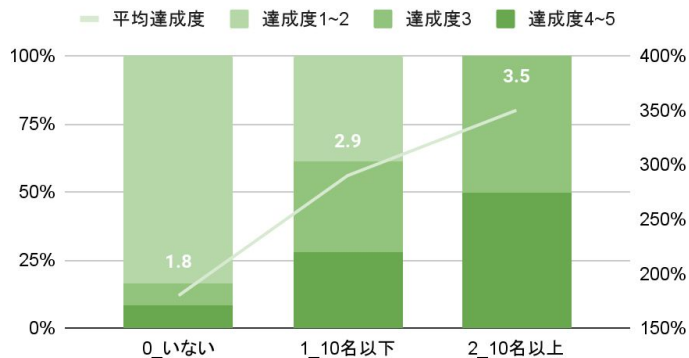


専任組織と達成度の関係

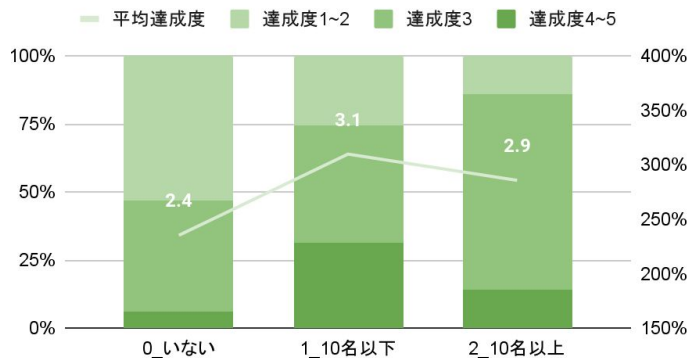
CCoE専任の有無、専任がある場合の人数規模と達成度の関係を昨年と比較しました。

昨年のアンケート結果では、組織化した場合や人数規模が大きくなると共に明確に達成度が向上していましたが、今年はその関係がなくなりました。これは組織化に伴って期待が向上してくる可能性を示唆しています。この比較は専任のチーム、部署がある会社の方が無い会社より比較的活動し易く、予算も持っていて、達成度(活動がどの程度まで到達しているか)が高いかどうかを確認するものとなります。

2022年



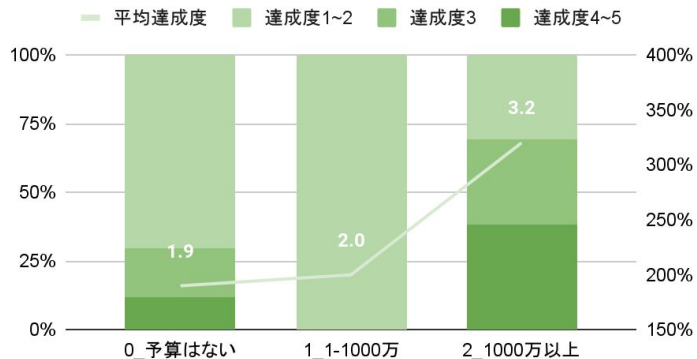
2023年



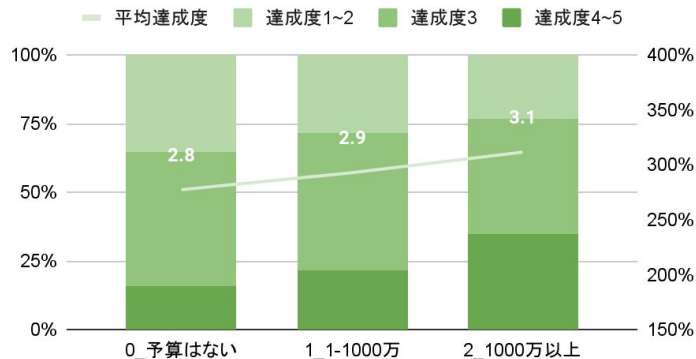
予算と達成度の関係

前頁と同様に、CCoEの予算有無や予算がある場合の規模と達成度の関係を昨年と比較しました。昨年同様、予算規模に応じて達成度が向上する傾向があります。他方、予算規模が小さくとも達成率の絶対値が向上している傾向があり(予算無し 昨年1.9 → 本年2.8、予算1,000万未満 昨年2.0 → 本年2.9)、ミニマムなCCoEの活動が生じている可能性を示唆しています。

2022年



2023年

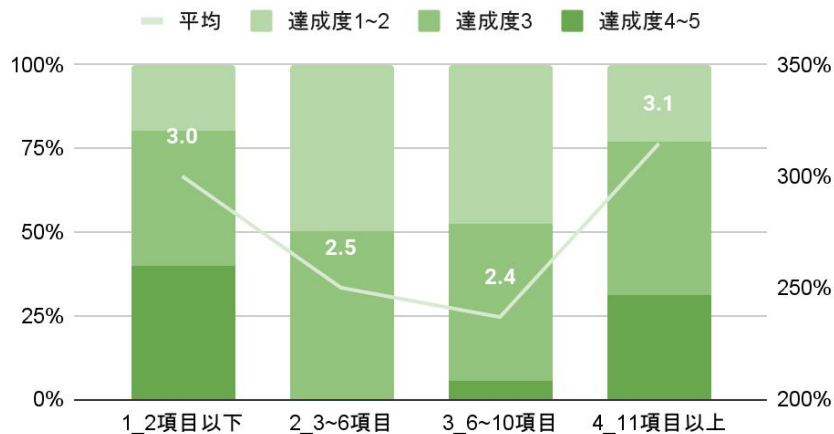


活動量と達成度の関係

CCoEとしての活動項目数ごとの達成度を比較したグラフです。活動項目が少ない、または多項目に取り組んでいる組織で達成度が高く、その中間は達成度が低いというU字型の傾向となっています。

活動内容を絞り込んで集中するか、または全方向に自由度を持って網羅的に活動する、といったスコープの明確な判断が達成率に影響する可能性を示唆しています。

2023年



(コラム) 活動って何をやってるんでしょうか？

CCoEは主に以下のような活動を定常的に行っています。

「統制(予防的/発見的/是正的)」「コスト最適化、モニタリング、指導」「クラウド利用のためのガイドライン整備」

「クラウド活用のためのベストプラクティス整備」「共通基盤(ランディングゾーン)の設計と構築、運用」

「個別プロジェクト向け相談窓口」「個別プロジェクト技術支援」「社内開発者・技術者コミュニティの運営」

「セミナーやハンズオン、勉強会の企画」「社内掲示板などを利用した各種告知やクラウド活用ノウハウの公開」

また、今回のアンケートでは以下のその他回答も見受けられました。

「アジャイル開発やローコード／ノーコード開発ツールの導入・活用推進」

「各プロジェクトのクラウド技術支援」「クラウド事業者、リセラーとの交渉、包括利用検討」

「開発環境のクラウド化」「新技術PoC」「資格取得推進、クラウドコミュニティなどを利用したブランド戦略」

「クラウドに限定せず CoE としてオンプレミスも対象」

クラウドの統制だけでなくR&Dっぽい事をやっている会社もあって、これまで出来ていなかった戦術や目標を実現する機能としての期待値が高い事が読み取れるね！

まとめ

今回の国勢調査アンケートの回答数は前年比5倍となり、いかに企業がDXに力を入れているか、その専任組織を必要としているかを表す結果となりました。

2022年、2023年のアンケート結果を比較した総括として、次のような特徴が目立ちました。

1. 社内イベント開催率の高さ
 - 前年との比較、また単年での他の取り組み内容と比較しても自社における社内イベント開催に力をいれている企業が多いようでした。CCoE組織外の社内への周知やコミュニティ化して全社を巻き込みDX推進をしていこうという動きが高まっているのかもしれません。
2. 達成度を高めるための具体的な取り組み
 - アンケート結果を見ると達成度が高いCCoE組織がどのような取り組みをしているのかを学ぶことができます。印象的なのは活動内容と達成度の関係性です。活動項目を増やすほど達成度が高くなる訳ではなく、活動項目数が少ない、または多い場合に達成度は高まり、中間層は達成度が下がる結果となりました。この結果から全体を網羅的に取り組むだけでなく、組織の大きさやレベルにより活動項目を限定することもひとつの選択肢になり得るのではないのでしょうか。



02

個別インサイト

これからのCCoEに向けて



Jagu'er

Japan Google Cloud User Group
for Enterprise

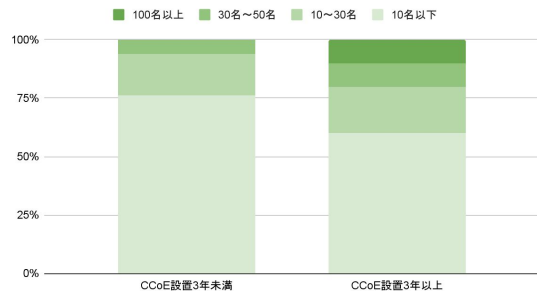
CCoE設置歴ごとの分析

本調査回答総数204件のうち、半数以上にあたる114件で「CCoEをこれから設立する段階」と回答頂きました。
そこで、CCoE立ち上げ期(3年未満)と、立ち上げ以降(3年以上)とに分け、それぞれのフェーズでの活動や状態をグラフ化しました。

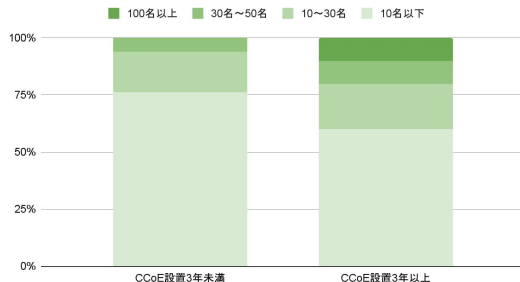
CCoEをこれから立ち上げようとしている方はもちろん、立ち上げ間もない組織や、既に立ち上げは済んでここから成熟させていく組織など、各社のフェーズに合わせた気付きがあると幸いです。

参考:設置年次ごとの属性分類

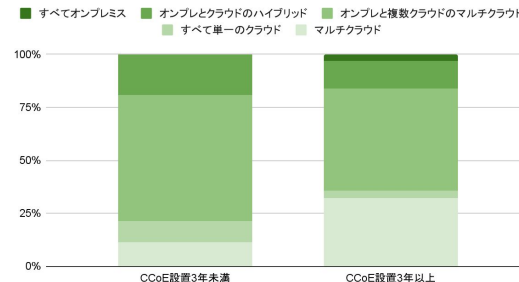
会社規模



CCoE人数規模



クラウド環境分類



仕事の満足度と活動量の分析

仕事の満足度と認知度について

CCoEとして業務推進するにあたって、各自が感じている満足度と、会社内での認知度を比較したところ、特に大きな関係は見受けられませんでした。これは満足度自体が主観的な言葉であるため定量的に図れなかったことありますが、認知度と達成度が相関するには活動のアウトプット、つまり広報の様な要素がかけられている可能性があるのでそこを強化することで補填できるかもしれません。

業務の達成を、会社として達成した事として価値を持たせる事でより人を巻き込み、コミュニティとしての達成感を高めるのかもしれない。

活動量と規模について

発見的統制、予防的統制、是正的統制、コスト最適化は相関が強くセットで取り組んでいる企業が多く見受けられました。また、ガイドラインとプラクティス整備は相関が強く、ガイドラインと同時に実際に利用するプラクティスを提供している企業が多いと思われます。

この活動量の実装方法や時期感に差が出ていました。分析したところ、予算が十分ついているところは管理ツールなどで短期的に全体的に統制を実現できている見込みが高く、予算がないところは段階的実装を行なっていると考えられます。



満足度・達成度と個別の活動注力度の考察

CCoEの設置歴(3年未満、3年以上)満足度、達成度に対して CCoEの活動注力度にどの程度相関があるかをみてみました。おおまかな傾向として発見的統制、是正的統制、ガイドライン整備、共通基盤の整備などの活動は 3年未満の組織の満足度、達成度への相関が大きく、3年以上の組織への相関はそれほど大きくありませんでした。

一方で社内開発者・技術者コミュニティの運営の注力度と個別プロジェクト技術支援の注力度は 3年以上のほうが満足度との強い相関がみられました。組織を設置して間もないころは CCoEとしての具体的な基盤の設立が大きく寄与する一方で組織の設置歴が長いほど、技術者や開発者のコミュニティを活用し継続的に機能させることが満足度へ貢献するのかもしれませんが。また、コスト最適化に関しては 3年未満の組織のほうが満足度との相関が高いです。長期的な運用をしたほうがコストへの関心は高まりそうですが少し意外な結果です。

CCoE設置歴別、満足度・達成度と活動注力度の相関

活動内容	満足度		達成度	
	3年以上	3年未満	3年以上2	3年未満3
発見的統制の注力度	0.008841	0.318076	-0.006663	0.615566
是正的統制の注力度	-0.050101	0.383959	0.07395	0.523836
コスト最適化の注力度	0.045961	0.489882	-0.169513	0.67347
ガイドラインの注力度	0.138891	0.326606	-0.403758	0.539845
ベストプラクティス整備の注力度	0.36216	0.401968	-0.092368	0.593183
共通基盤の設計・構築・運用の注力度	0.059959	0.430595	-0.1174	0.586281
個別プロジェクト向け相談窓口の注力度	0.247928	0.308495	-0.049255	0.397603
個別プロジェクト技術支援の注力度	0.43114	0.1351	0.23737	0.366584
社内開発者・技術者コミュニティの運営の注力度	0.517478	0.22947	0.245888	0.516083



満足度と予算有無、役員支援有無の考察

役員の支援がある場合、CCoEの設置が"3年以上"でも"3年未満"でも、満足度の平均および中央値が高くなっているのが確認されました。特に3年以上の場合は役員支援が無い場合は満足度の平均および中央値が最も低いですが、予算の有無による大きな差は見られませんでした。3年未満の場合は、3年以上ほど役員支援が無くても満足度の平均および中央値はそれほど影響がありませんでした。

CCoE設置初期には役員支援がなくてもある程度の影響力を持たせることが可能で、活動範囲を広げるなかで役員支援が必要になるのかもしれませんが。

CCoE設置歴別、満足度と予算の有無、役員支援有無

3年以上		
支援有り		
平均	3.36	3.67
中央値	3.00	3.00
標準偏差	1.21	0.87
支援無し		
平均	2.50	2.50
中央値	2.50	2.50
標準偏差	0.71	0.58

3年未満		
支援有り		
平均	3.50	3.64
中央値	3.50	3.00
標準偏差	0.86	1.12
支援無し		
平均	3.38	2.35
中央値	3.50	3.00
標準偏差	0.74	1.39



満足度・達成度と認知度に対する考察

大まかには認知度がおおきいと満足度、達成度は高まる傾向にはありますが、認知度が最大の5の場合は、必ずしも高くなるとはいえず線形的に比例するような結果ではありませんでした。また、3年以上、3年未満の設置時期で認知度と満足度、達成度のバラつきかたもことなっています。一概に相関があるとはいえませんが、設置時期によって認知度が満足度、達成度に与える影響については変化が生じているようです。

認知度がおおきくなるにつれて、CCoEへの要求も大きくなるのが認知度と満足度、達成度が単純な相関関係にならないことの要因の一つかもしれません。

CCoE設置歴別、満足度と認知度

3年以上				
全社認知度(5段階評価)	サンプル数	平均	標準偏差	中央値
1	2	3.50	0.71	3.60
2	3	3.33	0.58	3.00
3	8	3.25	1.04	3.00
4	10	3.70	1.16	3.00
5	2	3.00	1.41	3.00

3年未満				
全社認知度(5段階評価)	サンプル数	平均	標準偏差	中央値
1	4	3.50	0.58	3.50
2	14	3.29	1.49	3.50
3	9	3.76	0.83	4.00
4	13	3.38	0.96	3.00
5	7	3.29	0.95	3.00

CCoE成熟度別、達成度と認知度

3年以上				
全社認知度(5段階評価)	サンプル数	平均	標準偏差	中央値
1	2	2.00	1.41	2.00
2	3	2.67	0.58	3.00
3	8	3.13	0.83	3.00
4	10	3.40	0.84	3.00
5	2	4.00	0.00	4.00

3年未満				
全社認知度(5段階評価)	サンプル数	平均	標準偏差	中央値
1	4	3.25	0.50	3.00
2	14	2.14	0.86	2.00
3	9	3.20	0.79	3.00
4	13	3.00	1.24	3.00
5	7	2.71	0.76	3.00



CCoE設置歴ごとの主な活動ランキングTOP10

3年未満

1位	「個別プロジェクト向け相談窓口」
2位	「個別プロジェクト技術支援」
3位	「コスト最適化、モニタリング、指導」
4位	「クラウド利用のためのガイドライン整備」
5位	「セミナーやハンズオン、勉強会の企画」
6位	「【統制】 予防的統制（IAM最適化、ガイドラインの整備など）」
7位	「共通基盤（ランディングゾーン）の設計と構築、運用」
8位	「社内開発者・技術者コミュニティの運営」
9位	「クラウド活用のためのベストプラクティス整備」
10位	「【統制】 発見的統制（CASBツール、APM導入など）」

3年以上

1位	「個別プロジェクト向け相談窓口」
2位	「社内掲示板などを利用した各種告知やクラウド活用ノウハウの公開」
3位	「共通基盤（ランディングゾーン）の設計と構築、運用」
4位	「コスト最適化、モニタリング、指導」
5位	「個別プロジェクト技術支援」
6位	「社内開発者・技術者コミュニティの運営」
7位	「【統制】 予防的統制（IAM最適化、ガイドラインの整備など）」
8位	「クラウド利用のためのガイドライン整備」
9位	「セミナーやハンズオン、勉強会の企画」
10位	「【統制】 発見的統制（CASBツール、APM導入など）」

最後に設置歴ごとに注力している活動を比較しました。トップは同じ「個別プロジェクト向け相談窓口」ですが、2位以下に差異が見受けられます。これは3年以上活動している会社において、認知度が高くなったため、情報ポータルを設置や、共通基盤の提供といった横断的な活動を取りやすくなっている状況にあると考えられます。反対に3年未満の設置歴の場合では、取り組むにはハードルが高いかもしれない項目というインサイトを得ることが出来ました。

■ 各社の設置歴ごとに今後の活動を検討していくにあたってご参考となれば幸いです。



編集者一同



加藤 泰隆

ディップ株式会社
セキュリティ推進部

全体の構成案
リリースマネジメント



黒田 裕司

Ridgelinez 株式会社
Architecture & Integration
Practice Director

序文を担当



田中 英智

株式会社ネオキャリア
DX推進部
CCoE 担当部長

第1章、第2章を担当



中本 遼

ウルシステムズ株式会社
シニアコンサルタント

第2章を担当



望月 玲那

アルファス株式会社
Sales & Customer Success
Customer Success Manager

第1章を担当

With Powered By



ごあいさつ

Jagu'e'r CCoE 研究分科会は、Google Cloud を好きな人たちが

集まる Jagu'e'r というコミュニティの中でも、

特に CCoE に特化し、CCoE のベスト・プラクティスを世に広め、

CCoEで悩める IT リーダーズの一助となる活動をする分科会です。

本報告書が皆さまのお役に立つことを確信しております。



Jagu'e'r CCoE 研究分科会長

Yoshikazu Kurosu (黒須 義一)

株式会社 G-gen

上級執行役員 CRO

[CCoE 申込みフォーム](#)

[Jagu'e'r 申込みフォーム](#)

[#コミつく](#)

[#CCoE](#)





CCoE

